

来週はまた寒波が到来して日本海側では大雪になるといった予報が出されているようですが、皆様のところはいかがでしょう。学生の皆さんには、体調を崩さず卒業シーズンを迎えてほしいものです。

◆ 第37回日本語弁論大会が東京で開催！

本協会主催の「全国専門学校日本語学習外国人留学生日本語弁論大会」は今回で37回目となります。2月7日、東京の文化学園に初出場の学校も含めた16校の代表が集まりました。発表者の皆さんは、この日のために練習してきたスピーチを堂々と発表し、会場は聞き手の皆さんと共に大変盛り上がりました。



本大会の実行委員長を務めた **古屋 和雄 理事**（文化外国語専門学校）の開会のあいさつは、「発表者の皆さんは自分の思うことを一生懸命言葉にして話してくれます。聞き手である皆さんはそれをしっかりと受け止めて、コミュニケーションを成立させましょう。」と大会の成功を願うものでした。

続いて、ご後援とご協賛の紹介が司会の二人からありました。以下の団体、企業の皆様にご協力いただきましたこと、この場で改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ご後援 文部科学省
日本私立大学協会
全国専修学校各種学校総連合会
(公社) 日本語教育学会
(一財) 日本語教育振興協会

ご協賛 (株) 東京教育公論
(株) 凡人社
(株) ライセンスアカデミー

ア デ ィ ヤ ス レ ン

◆ 文部科学大臣賞は モンゴルの ADIYASUREN
エンフドゥルゴウーン
ENKHDULGUUNさん (外語ビジネス専門学校)

文部科学大臣賞は最も優れたスピーチに贈られるものです。外語ビジネス専門学校の
ア デ ィ ヤ ス レ ン エ ン フ ド ウ ル ゴ ウ ー ン
ADIYASUREN ENKHDULGUUNさん、おめでとうございます！

「おじいさんと海と私」(要旨)

2023年11月、社会見学の江の島で生まれて初めて海を見ました。そこで出会った釣りをするおじいさんの言葉が、孤独の中から私を引き上げてくれました。

3歳の時に両親が離婚し、14歳の時に母が亡くなりました。それから必死に努力しモンゴル国立大学に入学したものの、急病で危険な状態に。奇跡的に回復しましたが、その後世界はコロナ禍へ。命をどう使うか真剣に考え、日本に来ました。

おじいさんは「人は海を前にすると悪いことは考えない、いいことを考えながら生きる人は幸せになれる」と言いました。おじいさんの人生を通して出た言葉と誠実さに心を打たれた私は、この出会いこそ一期一会だと実感しました。

進路に迷い再び江の島を訪れました。海を前にして、私は全ての出会いに支えられてきたと感謝し、もっと成長するため日本での学びを継続する決心をしました。おじいさんと海と、海のない国から来た私の一期一会は、これからの私の人生の指針です。



素敵なおじいさんとの一期一会の出会いを見事な日本語で語ってくれました。

ガ ン バ ー ト ル エ ン ク ド ウ ル グ ー ン

◆ 外務大臣賞はGANBAATAR ENKHDULGUUNさん
(モンゴル 岩谷学園よこはまITビジネス専門学校) に！

外務大臣賞は、国際的な内容や自国と日本の発展に寄与する内容のスピーチで最も優れたものに贈られます。母国と日本の架け橋になってほしいと応援したくなるスピーチでした。

「架け橋」(要旨)

「世界の架け橋となる国際人」とは、どんな人でしょうか。

橋というのは二つをつなぐもので、もし橋の一方がなくなったら橋の意味はありません。それで、私は子どもの頃から自国の文化や存在を守り、強くしなければならぬと考えてきました。それは怖いからです。歴史の流れの中で、モンゴルの領土や人々の一部はロシアや中国の管轄下に置かれることになりました。大国の支配下にいる弱い立場の人々は苦しむ羽目になるというイメージを受けました。

留学中に知り合った友達の中には、国の政治的混乱などで苦しんでいる人もいます。彼らは皆、母国を誇りにし、安全で幸せに暮らしたいと願っています。それを見て、自分の国だけ強くしたいという私の考えを疑うようになりました。大切なのは助け合うことです。

「世界の架け橋となる国際人」とは、たとえ文化や言葉の違いはあってもお互いを理解し、共感し合い平和をもたらす人。それが今の答えです。



◆ 会長賞はBATMUNKH TEMUULENさん (モンゴル 大阪 YWCA 専門学校) の手に！

そして、この大会で最も歴史のある賞がこの**会長賞**です。



「たった一言が人生を変える」(要旨)

私たちは日々、多くの言葉を使っていますが、その一言が人生を変える力を持つことがあります。私は日本語を学び始めた頃、言葉の壁に苦しみ、帰国を考えたこともありました。漢字や敬語に戸惑い、思いを伝えられないもどかしさに落ち込んでいました。そんな時、ある日本の友人が「日本語はカレーの辛口みたいなものだよ。最初は辛いけど、慣れればクセになるから」と言ってくれたのです。その言葉に励まされ、困難を「辛さ」ではなく「スパイス」として受け入れようと思えるようになりました。

また、日本語の「木漏れ日」という表現を知ったとき、言葉には世界を描き人の心に景色を刻む力があると実感しました。今、AI や翻訳機が発達していますが、人の心を動かすのは「人間の言葉」です。たった一言で、不安が希望に恐れが挑戦する力に変わることもあります。だからこそ、私たちは日々の言葉を大切に、その力を信じて生きていきたいと思えます。

改めて、三賞に輝いた皆さんです。

文部科学大臣賞

「おじいさんと海と私」 アディヤスレン エンフドウルゴウーン ADIYASUREN ENKHDULGUUN (モンゴル)
外語ビジネス専門学校

外務大臣賞

「架け橋」 ガンバートル エンクドウルグーン GANBAATAR ENKHDULGUUN (モンゴル)

岩谷学園よこはま IT ビジネス専門学校

会長賞

「たった一言が人生を変える」
バトムンフ テムウレン BATMUNKH TEMUULEN (モンゴル)
大阪 YWCA 専門学校



続いて、優秀賞 3 名、審査員特別賞 3 名のご紹介です。

優秀賞

「失敗の捉え方」 リャオ フェングアン 廖 凡 廣 (台湾)
神戸 YMCA 学院専門学校



「勇気がある人はまず世界を楽しむ」 ロ ショ 魯 思 好 (中国)
文化外国語専門学校



「期間限定の友情」 ショウ ゴジュウ 蕭 語 柔 (台湾)
大阪 YMCA 国際専門学校



審査員特別賞

「しょうがない」 ガジゾナ エルビラ GAZIZOVA ELVIRA (ロシア)
学校法人石川学園 横浜デザイン学院



「返事を待たない手紙」 コウ セン 高 節 (中国 (香港))
関西外語専門学校



「人にはけんこうがとともたいせつ」 バラ ミ サ ラ ラ BALAMI SARALA
(ネパール) 学校法人情報文化学園 アーツカレッジヨコハマ

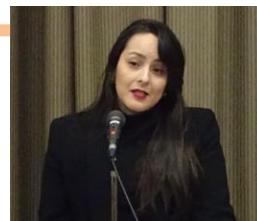


惜しくも入賞には手が届かなかった皆さんには、
「奨励賞」として賞状を贈呈いたしました。福岡外
語専門学校のアロス ペレス ジャネリ ミツエ**HAROS PEREZ JANELLY MITSUE**
さんが代表で奨励賞の賞状を受け取りました。



奨励賞

「未来を捨てて生きよ」 アロス ペレス ジャネリ ミツエ**HAROS PEREZ JANELLY MITSUE**
(メキシコ) 福岡外語専門学校



「見えないけれど大切なもの」 ケリー テンディアン**KELLY TENDEAN**
(インドネシア) ECC 国際外語専門学校



「文化をつなぐ留学生としての私の旅」 クダーラ レーカマラーゲ**KUDARALA LEKAMALAGE**
パヴィトラ マデューワンティ サラトチャンドラ**PAVITHRA MADHUWANTHI SARATHCHANDRA** (スリランカ)
学校法人佐藤学園 大阪バイオメディカル専門学校



「思い出」 ムンフオチル グンデグマ**MUNKH-OCHIR GUNDEGMAA** (モンゴル)
学校法人江副学園 新宿日本語学校



「音楽」 ナムスライ ガンチメグ**NAMSRAI GANCHIMEG** (モンゴル)
専門学校アジア・アフリカ語学院



「自分らしく生きること」 ポイン ナディ アウン**PWINT NADI AUNG** (ミャンマー)
国際アート&デザイン大学校



「メディテーションから学んだこと」 レ フブレ メラニー**LE FEBVRE MELANIE** (フランス)
麻生外語観光&ブライダル専門学校



今回は例年にも増して接戦で審査員泣かせの大会でした。

前回より2名多い16名による発表でしたが、時間がたつのを忘れ、それぞれの語りに心を揺さぶられたのは私だけではなかったことと思います。頑張ってくれた発表者の皆さんに心から「ありがとう」と伝えたいです。

長時間にわたる審査をご担当してくださったのはこちらの5名の皆さんです。

審査員の先生方

- 文部科学省 総合教育政策局 日本語教育課長 **今村 聡子** 先生
- 国士舘大学 21世紀アジア学部 教授 **栗原 通世** 先生
- ラボ日本語教育研修所 所長 **黒崎 誠** 先生
- 杉並区立中瀬中学校 副校長 **関根 陽一** 先生
- 一般財団法人 海外産業人材育成協会 日本語教育センター **松尾 花穂** 先生



審査員の先生方からのご感想を簡単にご紹介します。



文部科学省日本語教育課長の **今村 聡子** 先生は「ドキッとしたり、ほろっとしたり、本当に感動しました。素晴らしいスピーチだったので、みなさん自信を持ってください。そして、ご指導くださった先生にお礼を言うと先生方も喜ぶと思います」と発表者の皆さんとその先生方に労いの言葉を掛けられました。

国士舘大学の **栗原 通世** 先生は「皆さんのスピーチは心に響きました。こんなに素晴らしいスピーチをする皆さんは、これからどんな人生を歩んでいくのかなと大変楽しみになりました。引き続き勉強を頑張ってくださいね」と発表者の将来に思いを巡らせる感想でした。



ラボ日本語教育研修所の **黒崎 誠** 先生は「自分を見つめ直す、自分を知る、変わるといったことが共通していたように思います。未知の国、未知の言葉と出会ったことで、ご自身を見直す機会になったのであれば、そのことだけで日本語の教師としてはとてもうれしいことです」と優しい言葉を贈られました。

杉並区立中瀬中学校の 関根 陽一 先生は「中学生はまだまだ自分の気持ちを表現できないことが多いですが、皆さんはしっかり伝えていて感動しました。『あと1分』と出されても堂々と最後まで話し切っていたのも素晴らしいかっと思ひます。この感動を中学生に伝えます！」と温かい言葉で感想を語ってくださいました。



一般財団法人海外産業人材育成協会の 松尾 花穂 先生は「表現力や発音のよさばかりでなく、自分が伝えたいことを一生懸命伝えようとする熱意も評価のポイントだったと思ひます。皆さんは気持ちを伝えるという面で素晴らしいスキルをお持ちです。今後もその力を発揮してほしいです」と優しい笑顔でお話になりました。

池田 俊一 副会長（横浜デザイン学院）には、深堀和子会長（外語ビジネス専門学校）に代わって表彰式のプレゼンターと閉会の挨拶をお願いしました。

閉会の挨拶では「将来は若い皆様が主役となって日本と母国をつなぎ、それぞれの場所や立場で笑顔を忘れず活躍されることを心から願っています」と深堀会長から預かったメッセージを伝えるとともに、「ぜひ熱烈な日本ファンになって母国と日本の架け橋になってほしいです。それは、世界平和につながっていきます。そして、日本留学を成功させて、皆さんの夢を達成してください」と発表者の皆さんの将来の活躍に向けて期待の言葉を贈りました。



大会の実行委員としてお手伝いくださった 杉崎 雄一 先生・岡部 実紀 先生（横浜デザイン学院）、加来 順平 先生（外語ビジネス専門学校）、そして会場校の文化外国語専門学校のスタッフの皆様には心からお礼申し上げます。そして司会の2人 CHENG MAN FEIチャンメンフェイさんと OLEGAARD CASSANDRA SIRI MARIAオレゴードカサンドラシリマリアさん（文化外国語専門学校 日本語通訳ビジネス科2年）も本当に頑張ってくれました。

YouTubeの配信では、直前にURLが変更になりご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力のもと、今回も有意義な大会にすることができました。

次回の大坂大会もがんばります！



先生方や応援の友達とあるいは参加者同士で記念写真を撮る姿は心温まる光景でした。



今回も多くの皆様のご協力とご支援のおかげで大会を無事に終えることができました。
本当にありがとうございました。

2025年2月14日
全国専門学校日本語教育協会
ニュースレター担当